

2022年度〈衣笠〉全学副専攻 外国語コミュニケーションコース募集要項 《追加募集》

2021年12月

衣笠副専攻・外国語コミュニケーションコース（以下、「副専攻」とする）は、学部の外国語教育で形成された学力と問題関心を、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語の個別語学分野における一定のまとまりを持った科目群によって構成される「コース」での学習へと展開させるものです。

学生のみなさんは、各学部で専門分野を専攻し、専門科目を履修します。副専攻は、それらの専門科目を履修しながらさらに新しい分野、すなわち自己の専門以外の学問領域についての力量を培っていくために、一定のまとまりをもった科目群を履修していく制度です。

副専攻は、法学部・産業社会学部・文学部・国際関係学部・映像学部の共通コースとして設置され、共通の問題関心を持つ他学部の学生とともに学ぶ場となっていることから、広い視野を養う条件を生み出します。

<追加募集語種・定員>

語種	ドイツ語	フランス語	スペイン語
定員	9名	24名	47名

※所属学部によりコース選択の可否がありますので本要項 P.2 を確認してください。

※中国語・朝鮮語は追加募集を実施いたしません。

<対象学部・回生>

法学部・産業社会学部・文学部・国際関係学部*・映像学部

2021年度現1回生（2022年度、2回生より履修を開始）

※国際関係学部9月入学生のみ、2021年度現2回生が対象。

<応募資格>

1次募集で「不合格」となった者は応募できません。

本年度に当該言語を履修している者。

※ ただし、当該言語を現在必修外国語として履修していない学生（映像学部生含む）で、その言語についてこれまでに一定期間の学習経験がある（その言語圏での留学・滞在経験を含む）場合は、個別に応募の可否を判断します（語学力を証明する書類の提出や教員との面談が求められることがあります）。応募締切の1週間前までに下記 URL より「応募可否相談シート」を提出してください。

◆「全学副専攻（衣笠）応募可否相談シート」Web 申請フォーム

【提出期間】12月8日（水）10:00～12月10日（金）17:00（期限厳守）

【URL】<https://cw.ritsumeai.ac.jp/campusweb/SVA20D0.html?key=SUR20211116151707529152384>

相談シート確認の結果、面談が必要な場合は個別電話連絡します。また副専攻追加募集への応募の可否については、manaba+Rの個人通知で連絡します。

語学レベルの目安

ドイツ語・フランス語：各外国語検定4級程度、

スペイン語：スペイン語検定5級程度

<追加募集の応募から履修開始までのスケジュール>

項目	日程	備考
ガイダンス動画 (事務局/語種別)	各自で動画を視聴	教員/職員から副専攻の概要や各語種の詳細を説明します。 ガイダンス動画を視聴してから応募してください。 【2022年度 副専攻追加募集 WEB ページ】 ガイダンス動画や応募ページ URL を掲載しています。 https://secure.ritsumei.ac.jp/students/gengo/seika-manabi/minor-additionalapplication.html
応募期間 応募方法	12月8日(水)10:00 ～ 12月17日(金)17:00 <u>(※時間厳守)</u>	応募は 1回生時 しかできません。 以下 URL より応募してください。 URL: https://cw.ritsumei.ac.jp/campusweb/SVA20D0.html?key=SUR20211116162008633152383 ※受付完了後、学内メールに受付完了メールが届きます。 必ず確認してください。

言語教育センターHP (副専攻のページ) <http://www.ritsumei.ac.jp/gengo/seika-manabi/minor.html/>

項目	日程	備考
結果発表	1月12日(水)10:00	manaba+R で発表します。 (合否結果に関する疑義には応じません)
クラス発表	2022年3月下旬	manaba+R で発表します。
受講登録	2022年4月	クラス発表を元に必ず 各自で受講本登録 を行ってください。

【1】開設語種と学部による応募の可否

所属学部による 受講の可否	法学部	産業社会学部	国際関係学部	文学部	映像学部
	○	○	○	○	△(注1)

参加予定のプログラム等による 受講の可否	DUDP※1	法学部 英語副専攻	産業社会学部 英語副専攻	文学部 キャンパスアジア プログラム	文学部 クロスジェネ 英語アドヴァンス トコース
	×	×	×	×	○

※1 DUDP: Dual Undergraduate Degree Program (学部共同学位プログラム)
(注1)要項 p.1 の<応募資格>の注意書きを参照してください。

注意事項

- ① 全学副専攻と学部副専攻を重複して履修することはできません。
- ② 2・3回生で留学プログラム(2セメスター期間以上)に参加する場合、3・4回生以降に、残りの必要単位数分の副専攻科目を履修することとなります。あらかじめ、履修計画をよく立てたうえで応募してください。
- ③ 副専攻を履修する場合、母語話者レベルのコースは選択できません(留学生含む)。
- ④ 各コース内容については P.6 以降の説明を参照してください。

【2】副専攻と履修計画 **★2回生より履修を開始します。(国際関係学部9月入学生は3回生)**

1. 修得が必要な単位数とその取り扱い

要卒単位として認定されるために必要な最低修得単位数	要卒単位として認定される最大単位数
16 単位	20 単位

選択した副専攻コースに開設されている科目の中から、必要な単位数を修得した場合に限り、卒業に必要な単位として認定されます。16 単位未満の場合、要卒単位として認定されませんが、総修得単位数に算入されます。

16 単位以上修得した場合、卒業時に修了証を発行します。

副専攻は、独自の教育目標や到達目標を持ったコースですので、個々の科目を履修すればよいというものではありません。したがって副専攻で開設されている科目を部分的に履修することは認めません。必ず、各コースで必要な単位を修得する意志を固めて登録してください。やむを得ず途中で断念した場合、または各コースで修得に必要な単位数を修得できなかった場合には、卒業に必要な単位として認定されません。

単位認定分野	法学部	産業社会学部	国際関係学部	文学部	映像学部
	専門科目	発展科目	副専攻科目	発展科目	共通選択科目

※詳細は、必ず各学部の『学修要覧』で確認してください。

2. 履修上の注意

- (1) 副専攻の履修は1コースしか選択できません。2つ以上の語種の履修は認められません。
- (2) 副専攻での登録単位数は、各学部で定められている「受講登録制限単位数」に含まれます。
- (3) 副専攻では、2回生以上配当の科目を『1年次配当科目』、3回生以上配当の科目を『2年次配当科目』と呼びます。
- (4) 基本的には、各学部の必修科目と重ならないように時間割編成されていますが、時間割によっては学部必修科目と時限が重なる場合があります。その場合は、2年次(3回生時)に1年次の科目を履修するなど工夫をし、卒業までに必要単位数を修得できるよう計画を立ててください。
- (5) 副専攻ではsemesterごとに基礎クラスを設定しています。必修ではありませんが、体系的な学習を進めるために可能な限り履修するようにしてください。
- (6) 副専攻では適正な受講環境を保つためにクラス指定を行います(クラス指定をする科目は語種によって異なります)。個別にクラスの希望はできません。
- (7) 副専攻では重複受講はできません。未履修や不合格の科目を履修してください。
- (8) 副専攻の再履修クラスは設置しません。単位を修得できなかった場合には、次年度に同一科目または未履修の別の科目を履修してください。
- (9) 初修外国語の既修者対応プログラム履修者が、その継続学習として当該言語の副専攻の履修を希望する場合は、「副専攻特別履修」となりますので、今回の募集には応募出来ません。「副専攻特別履修」については、学修要覧を確認するか、言語教育センター(尚学館1階)に問い合わせてください。

なお、既修者対応プログラムで履修している言語以外のコースは履修できます。

- (10) やむを得ず副専攻を辞退する場合は、所属学部事務室にて「副専攻辞退願」を受領し、理由を詳細に明記のうえ、所属学部事務室へ提出してください。
- (11) 副専攻科目は学籍状態が「在学」の場合のみ受講できます(例えば、学籍状態が「留学」や「休学」の場合は受講不可)。

3. 現地で学ぶ初修語セミナーの単位授与

副専攻では、当該言語にかかわる海外留学プログラム「現地で学ぶ初修語セミナー」へ参加した場合、「(副) Intensive Language Workshop (現地で学ぶ初修語セミナー)」(2単位)を副専攻の単位として認定することができます。

ただし、1回生時での参加は副専攻の単位認定の対象となりません。また、複数回参加した場合も副専攻での単位認定ができるのは1回限りです。

※法学部では副専攻への単位授与が認められていないため、教養科目での単位授与となります。

4. 海外留学（協定・個別合意）での単位認定

副専攻では、当該言語にかかわる海外留学（協定・個別合意）に参加し、修得した単位について、帰国後の申請により12単位を上限に副専攻の単位として単位認定することができます。申請は、留学からの帰国後ただちに行ってください。国際教育センター・所属学部事務室へ相談してください。

一度確定した単位をさかのぼって認定分野を変更することはできません。

【3】追加募集人数と選考方法

語種	ドイツ語	フランス語	スペイン語
定員	9名	24名	47名
選考方法	春学期の当該言語成績、GPA、志望理由書に基づき総合的に判定する。		

※当該言語を学習していることが原則である。

【4】副専攻に関する Q&A

- Q1 副専攻は単位をまとめて履修しなければならないので、負担が増えるのではないのでしょうか？
- A. 副専攻での履修単位は、卒業要件単位の代替という方法で設定されています。つまり、卒業までに修得しなければならない単位数のうち、16～20単位を副専攻として修得します。自分が興味・関心をもつ分野について、同じ関心を持つ仲間とともに一定のまとまりをもった関連性の強い科目群を学ぶため、集中した効果的な学習ができます。それゆえ、副専攻として学ぶことは単位修得、コース修得に結びつきやすいとも言えます。
- Q2 副専攻の科目は、受講登録の制限単位に含まれるのでしょうか？
- A. 副専攻の科目は、登録制限単位の中に含まれます。
- Q3 なぜ、副専攻で単位をまとめて修得できなかった場合、その単位は卒業に必要な単位として認められないのでしょうか？
- A. 副専攻は、一定のまとまりをもったコースとして到達目標が明確に設定されています。したがって部分的な履修では副専攻を修得したとは認定されません。そのため、部分的に修得した単位は要卒業単位外の単位として取り扱われます。なお、これまで多くの学生が、3回生終了時までには要卒業単位としての認定に必要な単位数(16単位)を満たしており、副専攻の16～20単位は十分修得できる単位数と考えられます。副専攻科目は2回生～4回生次(およびそれ以降の回生次)に履修できるため、卒業までに所定の単位数を満たすことは可能です。

- Q4 副専攻は、なぜ一つのコースしか選択できないのですか？
- A. 副専攻は、一定の単位をまとめて修得するコースとして設定されています。したがって、一人の学生が同時に複数のコースを修得することは副専攻の目的や学習条件上も好ましくないと判断しているためです。また、副専攻は限られた人数しか受け入れることができません。できる限り多くの学生に参加してもらいたいと考えているため、一人の学生の複数コース履修は認めていません。
- Q5 受講登録は必要でしょうか。
- A. みなさんが各自で時間割を確認のうえ、受講する科目を登録してください。各学部事務室や言語教育センターが副専攻科目の受講登録を行うことはありません。春学期科目は3月に、秋学期科目は9月に manab+R でクラス発表を行いますので、指定されたクラスを確認し、各自で受講登録を行ってください。開講後は manaba+R の個人別時間割表を確認し、正しく受講登録がされていることを必ず確認してください。
- Q6 1年次配当科目が2回生時に取れない場合はどうしたら良いのでしょうか？
- A. 3回生からは1年次配当科目・2年次配当科目の全てを履修することが出来ますので、3回生以上で受講することが可能です。
- Q7 修了証とは何ですか？
- 16単位以上修得し副専攻を修了したことを証明する証書です。卒業時に授与されます。

ドイツ語コミュニケーションコース

1. 位置づけ

ドイツ語の総合的な運用能力を身につけると同時に、広くドイツ語圏の文化と社会を知ることを目指します。ドイツ語運用能力としては、1年次（2回生時）でドイツ語検定試験（独検）3級、あるいは Goethe-Zertifikat 2（ヨーロッパ言語共通参照枠による検定試験の CFER A2）に合格できるレベル、2年次（3回生時）では独検 2級、あるいは Goethe-Zertifikat B1（同様の検定試験の CFER B1）に合格できるレベルを目指します。

またこのコースは、現地で学ぶ初修語セミナー（ドイツ・ライプツィヒ大学）への参加や、上記の各検定試験の積極的な受験を奨励しています。

本コースでドイツ語を楽しく学びつつ、これから国際社会で生きていくために必要な異文化理解能力を高めていきましょう！

2. 科目編成

科目名	期間	単位数	配当年次	クラス規模 (目安)	備考
(副) 専門ドイツ語Ⅰ	春学期	2	1	35名	
(副) 専門ドイツ語Ⅱ	秋学期	2	1	35名	
(副) 専門ドイツ語Ⅲ	春学期	2	1	35名	
(副) 専門ドイツ語Ⅳ	秋学期	2	1	35名	
(副) ドイツ語コミュニケーションⅠ	春学期	1	1	25名	※基礎クラス
(副) ドイツ語コミュニケーションⅡ	秋学期	1	1	25名	※基礎クラス
(副) 専門ドイツ語Ⅴ	春学期	2	2	35名	
(副) 専門ドイツ語Ⅵ	秋学期	2	2	35名	
(副) 専門ドイツ語Ⅶ	春学期	2	2	35名	
(副) 専門ドイツ語Ⅷ	秋学期	2	2	35名	
(副) ドイツ語コミュニケーションⅢ	春学期	1	2	25名	※基礎クラス
(副) ドイツ語コミュニケーションⅣ	秋学期	1	2	25名	※基礎クラス
(副) Intensive Language Workshop (現地で学ぶ初修語セミナー)		2	1		法学部はp.5の3を参照

※副専攻ではセメスターごとに基礎クラスを設定しています。

系統的な学習を進めるために可能な限り履修するようにしてください。

3. 科目概要

【1年次担当科目】（2回生）

・専門ドイツ語Ⅰ・Ⅱ（読む、文法）

本コースの入門科目です。1回生時に習得したドイツ語の基礎力をいっそう確実なものにし、ドイツ語のより高度な総合的な運用能力を身につけるための第一歩となる授業です。基礎的な文法（Aレベル）を体系的に復習しつつ、新たな語彙と正確な読解力を身につけます。

・専門ドイツ語Ⅲ・Ⅳ（聞く、書く）

視聴覚教材を利用した聞き取りの訓練（受信）と、表現力としての作文能力（発信）を伸ばす授業です。独検 4級/A1 レベルを復習しつつ、徐々に独検 3級/A2 レベルを目指します。簡単なアナウンスや会話を聞き、その内容を理解したり、短い個人的な手紙を書いたり、所定の様式への記入ができるようになります。

- ・ドイツ語コミュニケーションⅠ・Ⅱ（会話）

本コースの1年次基礎クラスです。ドイツ語圏の社会や日常生活を素材とした会話練習から始めます。挨拶や自己紹介、質問と応答、自分の感情や思考についての簡単な表現ができるようになります。Goethe-Zertifikat 1 および 2 の合格に必要なコミュニケーション能力を身につけます。

【2年次配当科目】（3回生以上）

- ・専門ドイツ語Ⅴ・Ⅵ（上級ドイツ語）

ドイツ語コミュニケーションコースでは、それぞれ自分に関心のある学び方やテーマで語学力および異文化理解力を磨き、仕上げていくことを奨励しています。「専門ドイツ語Ⅴ・Ⅵ」では、たとえば、テレビ放送や新聞などのメディアによるドイツ語を学んだり、Goethe-Zertifikat (B1) などの検定試験を目指したりすることができます。いずれのクラスもドイツ語検定3級から2級/A2 から B1 の語学力の習得を目指します。年度によってクラスのコンテンツが変わることがありますので、シラバスをよく読み、自分に合ったクラスを選んでください。

- ・専門ドイツ語Ⅶ・Ⅷ（ドイツ語圏の文化）

「専門ドイツ語Ⅴ・Ⅵ」と同様に、自分の関心に合った学び方やテーマを選択するクラスです。いずれのクラスもテーマはドイツ語圏の文化ですが、芸術、環境、政治、歴史など中心に扱う分野が異なります。語学習得は、ドイツ語検定3級から2級/A2 から B1 のレベルを目指します。年度によってコンテンツが変わることがありますので、シラバスをよく読み、自分に合ったクラスを選んでください。

- ・ドイツ語コミュニケーションⅢ・Ⅳ

「専門ドイツ語Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ」とともに、ドイツ語コミュニケーションコースの総仕上げとして2年次の基礎クラスとなる科目です。簡単な会話、短いスピーチ、個人的な文章や簡単なレポートの書き方などを学びつつ、ドイツ語圏の日常生活や文化に対する理解を深めます。A2 から B1 レベルの総合的な語学力を身につけます。

フランス語コミュニケーションコース

1. 位置づけ

フランス語の総合的な運用能力を高めると同時に、フランス語圏の文化と社会に関する理解を深め、国際社会で活躍できる教養を身につけることを目指します。フランス語の運用能力としては、実用フランス語技能検定試験（仏検）2級、あるいはフランス国民教育省の主催する語学試験 DELF（B1）に合格できるレベルを目標としています。

また現地で学ぶ初修語セミナー（フランス・トゥールーズ＝ル＝ミラーユ大学）への参加や、仏検の積極的な受験を奨励しています。

本コースで楽しく学びながら、フランス語の運用能力と異文化理解能力にいつもの磨きをかけてください。

2. 科目編成

科目名	期間	単位数	配当年次	クラス規模 (目安)	備考
(副) 専門フランス語Ⅰ	春学期	2	1	35名	※基礎クラス
(副) 専門フランス語Ⅱ	秋学期	2	1	35名	※基礎クラス
(副) 専門フランス語Ⅲ	春学期	2	1	35名	
(副) 専門フランス語Ⅳ	秋学期	2	1	35名	
(副) フランス語コミュニケーションⅠ	春学期	1	1	25名	
(副) フランス語コミュニケーションⅡ	秋学期	1	1	25名	
(副) 専門フランス語Ⅴ	春学期	2	2	35名	
(副) 専門フランス語Ⅵ	秋学期	2	2	35名	
(副) 専門フランス語Ⅶ	春学期	2	2	35名	※基礎クラス
(副) 専門フランス語Ⅷ	秋学期	2	2	35名	※基礎クラス
(副) フランス語コミュニケーションⅢ	春学期	1	2	25名	
(副) フランス語コミュニケーションⅣ	秋学期	1	2	25名	
(副) Intensive Language Workshop (現地で学ぶ初修語セミナー)		2	1		法学部はp.5の3を参照

※副専攻ではセメスターごとに基礎クラスを設定しています。

系統的な学習を進めるために可能な限り履修するようにしてください。

3. 科目概要

【1年次配当科目】（2回生）

・専門フランス語Ⅰ・Ⅱ（講読・文化論）

本コースの入門的性格を持つ基幹科目で、副専攻1年次の基礎クラスとなります。文化・社会・歴史をテーマとする簡単な文章を読み、その内容を理解することができます（①簡単な記述文、簡単な手紙・掲示などを読み、その内容を理解することができます、②簡単な文章の要点を読み取るすることができます）。実用フランス語技能検定試験4級～3級程度のリーディング能力を身につけます。

・専門フランス語Ⅲ・Ⅳ（視聴覚）

視聴覚教材を使用して、ヒアリングを中心とした運用能力の養成を図ります。簡単な表現を聞き、その内容を理解することができます。実用フランス語技能検定試験4級～3級程度のヒアリング能力を身につけます。

・フランス語コミュニケーションⅠ・Ⅱ

相手に伝えたいと思う内容を平易な表現を使って言うことができます（①簡単なあいさつ、紹介、質疑応答ができ、また簡単なことならについての会話、簡単な意見、感想の表明などができます、②平易なフランス語文の綴りを書き取りできます）。実用フランス語技能検定試験 4 級～3 級程度のヒアリング・スピーキング・ディクテーション能力を身につけます。

【2 年次配当科目】（3 回生以上）

・専門フランス語Ⅴ・Ⅵ（仏文法・作文）

相手または第三者に伝えたいと思う内容を簡単な表現を使って書くことができます（①簡単な記述文、簡単な手紙・掲示などを書くことができます）。実用フランス語技能検定試験 3 級～2 級程度のライティング能力を身につけます。

・専門フランス語Ⅶ・Ⅷ（講読・現代社会）

副専攻 2 年次の基礎クラスです。新聞や雑誌の比較的理解し易い文章を読み、その内容を理解することができます（①比較的理解し易い記述文、手紙・掲示などを読み、その内容を理解することができます、②比較的理解し易い文章の要点を読み取ることができます）。実用フランス語技能検定試験 3 級～2 級程度のリーディング能力を身につけます。

・フランス語コミュニケーションⅢ・Ⅳ

相手に伝えたいと思う内容を簡単な表現を使って言うことができます（①あいさつ、紹介、対応、伝言、道案内などができます、②簡単なフランス語文の綴りを書き取りできます）。実用フランス語技能検定試験 3 級～2 級程度のヒアリング・スピーキング・ディクテーション能力を身につけます。

中国語コミュニケーションコース

1. 位置づけ

中国語の総合的運用能力を身につけると同時に、広く中国語圏の文化や社会を知ること为目标とします。1年次で「中国語検定試験（中検）」3級、中国教育部（日本の文科省にあたる）主催の「漢語水平考試」（HSK）は4級、2年次で「中国語検定試験」2級、「漢語水平考試（HSK）」でいえば5級合格をめざします。

本コースで楽しく学びながら、中国語の運用能力を高め、中国語文化圏についての理解を深めることによって、国際社会で生きていくために必要な異文化理解の力を養います。

2. 科目編成

科目名	期間	単位数	配当年次	クラス規模 (目安)	備考
(副) 専門中国語Ⅰ	春学期	2	1	35名	※基礎クラス
(副) 専門中国語Ⅱ	秋学期	2	1	35名	※基礎クラス
(副) 専門中国語Ⅲ	春学期	2	1	35名	
(副) 専門中国語Ⅳ	秋学期	2	1	35名	
(副) 中国語コミュニケーションⅠ	春学期	1	1	25名	
(副) 中国語コミュニケーションⅡ	秋学期	1	1	25名	
(副) 専門中国語Ⅴ	春学期	2	2	35名	
(副) 専門中国語Ⅵ	秋学期	2	2	35名	
(副) 専門中国語Ⅶ	春学期	2	2	35名	※基礎クラス
(副) 専門中国語Ⅷ	秋学期	2	2	35名	※基礎クラス
(副) 中国語コミュニケーションⅢ	春学期	1	2	25名	
(副) 中国語コミュニケーションⅣ	秋学期	1	2	25名	
(副) Intensive Language Workshop (現地学ぶ初修語セミナー)		2	1		法学部は p.5 の 3 を参照

※副専攻では Semester ごとに基礎クラスを設定しています。

系統的な学習を進めるために可能な限り履修するようにしてください。

3. 科目概要

【1年次配当科目】 (2回生)

・専門中国語Ⅰ・Ⅱ (講読)

本コースへの「導入」的役割を担う科目で、副専攻1年次の基礎クラスとなります。1回生で学んだ中国語の文法知識をさらに確かなものとしつつ、さまざまな分野の長文を読むことを通して読解力の向上を目指します。講読に際しては、必ず音読を行います。それにより、中国語の漢字のピンインを把握し、正しい声調や発音で読む力が身につきます。

・専門中国語Ⅲ・Ⅳ (リスニング)

1回生で学んだ中国語文法知識をさらに確かなものとしつつ、視聴覚教材の利用を通して、ヒアリングを中心とした運用能力の養成を図ることを目指します。リスニング力の向上のための訓練に伴って会話の力を身につけることも可能となります。

・中国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ (会話)

実践的な会話能力を身につけることを目指します。簡単な文であっても耳で聴いてこれを理解し、また音声で人に伝えることはそれほど簡単なことではありません。ネイティブ教員

による徹底的な指導により、基礎レベルの中国語を使って自分の言いたいことを相手に伝えられるようになることを目指します。

【2年次配当科目】（3回生以上）

・専門中国語Ⅴ・Ⅵ（作文）

短文から徐々に長文へと段階的にトレーニングを重ねていくことによって、中国語の作文能力の向上を図ることを目指します。中国語の文を作る力を養成することに伴って、リスニング能力ひいては会話能力も向上させることが可能です。

・専門中国語Ⅶ・Ⅷ（講読）

本コースの「総まとめ」的な位置づけの科目で、副専攻 2 年次の基礎クラスとなります。さまざまな分野の長文を読むことを通して読解力のさらなる向上を目指します。講読に際しては、必ず音読をすることによって、中国語の漢字のピンインを把握し、これを正しい声調で読む訓練を専門中国語Ⅰ・Ⅱに引き続き行います。

・中国語コミュニケーションⅢ・Ⅳ（会話）

高度な会話能力を修得することを目指します。テキストの文の朗読、聴き取りの練習、グループでの会話練習などを通して自分の意思や考えを正確に伝えるのに必要な会話の総合力を養成します。

スペイン語コミュニケーションコース

1. 位置づけ

スペイン語圏（スペイン、中南米諸国）の歴史、文化や現代社会についての専門的知識を身に付けるとともに、国際社会で活躍できる高度なスペイン語運用能力を獲得することを目標とします。具体的目標としては、スペイン教育文化スポーツ省実施の DELE (Diplomas de Español como Lengua Extranjera) の A1、A2、さらには B1 合格、および日本スペイン協会実施のスペイン語検定 4 級、3 級合格を目指します。上記目的達成のために、現地で学ぶ初修語セミナー（スペイン・アルカラ大学、またはメキシコ・モンテレイ工科大学）参加を大いに奨励します。また本コースは、半年や 1 年の留学をする学生に対して留学準備としての意味を持ちます。

2. 科目編成

科目名	期間	単位数	配当年次	クラス規模 (目安)	備考
(副) 専門スペイン語 I	春学期	2	1	35 名	※基礎クラス
(副) 専門スペイン語 II	秋学期	2	1	35 名	※基礎クラス
(副) 専門スペイン語 III	春学期	2	1	35 名	
(副) 専門スペイン語 IV	秋学期	2	1	35 名	
(副) スペイン語コミュニケーション I	春学期	1	1	25 名	
(副) スペイン語コミュニケーション II	秋学期	1	1	25 名	
(副) 専門スペイン語 V	春学期	2	2	35 名	※基礎クラス①
(副) 専門スペイン語 VI	秋学期	2	2	35 名	※基礎クラス①
(副) 専門スペイン語 VII	春学期	2	2	35 名	※基礎クラス②
(副) 専門スペイン語 VIII	秋学期	2	2	35 名	※基礎クラス②
(副) スペイン語コミュニケーション III	春学期	1	2	25 名	
(副) スペイン語コミュニケーション IV	秋学期	1	2	25 名	
(副) Intensive Language Workshop (現地で学ぶ初修語セミナー)		2	1		法学部は p.5 の 3 を参照

※副専攻では Semester ごとに基礎クラスを設定しています。

系統的な学習を進めるために可能な限り履修するようにしてください。

※2 年次科目については基礎クラス① (V・VI) または基礎クラス② (VII・VIII) の少なくともいずれかは履修してください。

3. 科目概要

【1 年次配当科目】 (2 回生)

- ・ 専門スペイン語 I、II (発音、基礎文法、練習問題)

基本的な文法事項を確認し、語彙、表現力を養う。正しい発音、イントネーションができるよう集中的に訓練する。

- ・ 専門スペイン語 III、IV (講読、語彙、練習問題)

文法的知識を確かな言語運用能力に結びつけるため、講読や練習問題を行う。また、中級レベルの語彙力獲得を目指す。

- ・スペイン語コミュニケーションⅠ・Ⅱ（視聴覚）
できるかぎり視聴覚教材を利用し、基本的な会話能力の向上に努める。同時に、スペイン語圏の文化の基本的な知識を得る。ネイティブ教員の指導で自然な発音とイントネーションができるようにする。

【2年次配当科目】（3回生以上）

- ・専門スペイン語Ⅴ、Ⅵ（講読・スペイン）
主にスペインに関するテキストの講読を通じ、スペイン語の語彙力、読解力を向上させるとともに、スペインの歴史、文化等に関する知識を習得する。必要に応じ文法的知識の復習、展開に努める。
- ・専門スペイン語Ⅶ、Ⅷ（講読・ラテンアメリカ）
主にラテンアメリカに関するテキストの講読を通じ、スペイン語の語彙力、読解力を向上させるとともに、ラテンアメリカ諸国の歴史、文化等に関する知識を習得する。必要に応じ文法的知識の復習、展開に努める。
- ・スペイン語コミュニケーションⅢ、Ⅳ（会話、作文）
より複雑な構文の文章が聞いて理解でき、話せることを目標とする。またスペイン語圏の国の政治、経済、社会等についての専門的な知識を得、プレゼンやレポート作成ができるレベルを目指す。

朝鮮語コミュニケーションコース

1. 位置づけ

読む、書く、聞く、そして話す朝鮮語の総合的な運用能力を高めるとともに、言語の背景となる社会・文化・歴史についての理解を深め、21世紀の日本と朝鮮半島の両国（大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国）との架け橋となりうるような人材の育成を目指します。

朝鮮語運用能力の面では、「ハングル能力検定試験」準2級の合格を一応の目安としますが、留学経験や中学・高校での既修者など個々の学習レベルに応じて、到達目標をより高く設定した指導も行いません。さらに、本学の韓国人留学生らとの交流を通して、朝鮮語の実践的な運用能力を高めるとともに、日韓の相互理解の促進を図ります。

2. 科目編成

科目名	期間	単位数	配当年次	クラス規模 (目安)	備考
(副) 専門朝鮮語Ⅰ	春学期	2	1	35名	※基礎クラス
(副) 専門朝鮮語Ⅱ	秋学期	2	1	35名	
(副) 専門朝鮮語Ⅲ	春学期	2	1	35名	
(副) 専門朝鮮語Ⅳ	秋学期	2	1	35名	※基礎クラス
(副) 朝鮮語コミュニケーションⅠ	春学期	1	1	25名	
(副) 朝鮮語コミュニケーションⅡ	秋学期	1	1	25名	
(副) 専門朝鮮語Ⅴ	春学期	2	2	35名	※基礎クラス
(副) 専門朝鮮語Ⅵ	秋学期	2	2	35名	
(副) 専門朝鮮語Ⅶ	春学期	2	2	35名	
(副) 専門朝鮮語Ⅷ	秋学期	2	2	35名	※基礎クラス
(副) 朝鮮語コミュニケーションⅢ	春学期	1	2	25名	
(副) 朝鮮語コミュニケーションⅣ	秋学期	1	2	25名	
(副) Intensive Language Workshop (現地ですぶ初修語セミナー)		2	1		法学部は p.5 の 3 を参照

※副専攻ではセメスターごとに基礎クラスを設定しています。

系統的な学習を進めるために可能な限り履修するようにしてください。

3. 科目概要

【1年次配当科目】(2回生)

・専門朝鮮語Ⅰ・Ⅱ (文法・基礎講読)

初修段階で学んだ基本的な文法事項の復習と応用、さらに基礎的な文章講読を通じて今日の韓国・北朝鮮のイメージを獲得するとともに、日本と朝鮮半島との関係についても必要な基礎知識を得る。

・専門朝鮮語Ⅲ・Ⅳ (情報・視聴覚)

ビデオやDVD教材を中心に現代韓国社会の理解を深めながら、作文、およびヒアリング能力を高めることを基本とする。パソコンでのハングル入力、インターネットでの韓国サイトへのアクセスなどもとり入れ、デジタル化をふまえた多彩な表現力を培う。

・朝鮮語コミュニケーションⅠ・Ⅱ

ネイティブ教員の指導によって聞く力、話す力の基礎を養う。母音の区別、濃音など朝鮮語固有の発音に留意し、正確な表現力を身につける。

【2 年次配当科目】 (3 回生以上)

・ 専門朝鮮語Ⅴ・Ⅵ (現代韓国事情)

新聞・雑誌などをテキストに、単に読解力を高めるだけではなく、要約文、論点整理、意見表明、問題提起など、文章作成の面での表現力、論理力を高める。

・ 専門朝鮮語Ⅶ・Ⅷ (実践講読・現代社会)

現代韓国の政治・社会や対外関係、文化についての学生の自主的な調査・発信と担当教員の朝鮮語によるレクチャーを組み合わせ、朝鮮語の高度で総合的な運用能力の育成をはかる。

・ 朝鮮語コミュニケーションⅢ・Ⅳ

ネイティブ教員の指導によってより高度な会話力を身につけるようにする。朝鮮語による E メールを送受信を利用した書く力の養成などを含む、より実践的な朝鮮語運用能力の獲得を目指し、ハングル能力検定試験準 2 級レベルの力をつけることを目標とする。